

MACROCOSM



CONTENTS

- 2 財団法人 青少年国際交流推進センター理事長あいさつ
- 3 財団法人 青少年国際交流推進センター平成23年度事業計画書
- 4 日本青年国際交流機構(IYEO)会長あいさつ／活動計画
- 6 日本青年国際交流機構自主活動サポート助成金制度
- 7 IYEO東日本大震災復興支援活動報告
- 10 第9回青年社会活動コアリーダー育成プログラム
- 12 SSEAYPインターナショナル第23回総会(SIGA)

マクロコズム第94号 (平成23年度第1号) の 刊行に当たって



財団法人 青少年国際交流推進センター
理事長 上村 知昭

マクロコズム第94号 (平成23年度第1号)の刊行に当たり、何より始めに、去る3月11日に発生し、未曾有の大災害となった東日本大震災により亡くなられた方々の御冥福をお祈りいたしますとともに、被災された皆様に心から御見舞い申し上げます。言い表す言葉も見つからない程の甚大な被害に心が痛みます。このような中で、懸命に復旧、復興に

立ち上がっておられる、また立ち上がろうとされている被災者及び被災地の方々のために、私も、一個人としてはもとより国際交流に携わる立場からも、組織を通じあるいは個人としてでき得る限りの支援、励ましを行ってまいりたいと存じます。当財団としては、役職員一丸となり、日本青年国際交流機構(IYEO)を始め、関係団体、関係各位と様々な形で連携を図りつつ、継続的なものとして支援を行ってまいらなければならないと思っております。

これまでに、全国のIYEO会員からセンターに集められた救援物資をセンターの災害支援の一環として福島・宮城・岩手等の被災地に送ったり、当センター大橋事務局長を宮城・岩手に派遣し、IYEO副会長の立場も兼ねて諸調整に当たってもらったりいたしました。また、去る5月30日の評議員会・理事会において、当財団として政府(内閣府)の義援金窓口口座に相当額の義援金を拠出することが決議され、7月をメドに行き参りたいと考えていることも付言させていただき次第です。

このような状況の中ではありますが、22年度のセンター諸事業は、内閣府青年国際交流事業への協力・実施をはじめ自主事業であるタイ王国へのボランティア派遣、国際理解教育支援、機関紙マクロコズムの発行等による情報提供・啓発等皆様の御支援・御協力を得て所期の成果を挙げ無事終了することができました。また、22年度は、当センターのホームページについて格段の充実を図っておりますので是非御活用いただきたいと思います。

23年度におきましては、未曾有の大災害の影響はいろいろな形で生じるとは思いますが、内閣府は全ての事業を予定通り行う方針と承っており、当センターとしてもこれまで同様、それらの円滑な実施に最大限の協力をいたして参りたいと考えております。当センター設立の趣旨である「国際化の進展する時代にふさわしい青年リーダーの育成とこれら青年の人的ネットワークの形成」ということは、ますます重要かつ急務となっており、今年度もこれまでも増し、役職員一丸となってIYEOの皆さんと密接な連携を図りつつ、その使命達成に向け頑張る所存です。変わらぬ御支援・御協力をお願い申し上げます。23年度マクロコズム発刊に当たっての挨拶とさせていただきます。

平成23年度事業計画書

1 青少年国際交流事業の企画、実施及び協力

(1) 青少年国際交流スタディツアー

地域での国際交流活動に関心と意欲のある青少年を内閣府の青年国際交流事業既参加青年の組織のある国に派遣し、ボランティア活動への取組や訪問国青年の案内による視察、調査等を行う。

年1回 9日間、参加人数20人程度

(2) 国際理解教育支援事業

内閣府の実施する青年国際交流事業に参加した在日外国青年等を、国際理解教育に資するため、日本の学校に派遣する。年6回 派遣人数 各3人程度

(3) 内閣府を始めとする国等の実施する青年国際交流事業への実施協力

2 青少年国際交流に関する啓発及び研修

(1) 青少年国際交流全国フォーラム

全国各地域で国際交流に携わる指導者及び青年を対象に、有識者の講演、青少年国際交流活動に関する事例発表・討論等を行う。

年1回 和歌山県で開催、参加人数 300人程度

(2) 青少年国際交流を考える集い

全国8ブロックで開催。平成23年度は次の各県で開催する。

北海道・東北ブロック・・・山形県

関東ブロック・・・群馬県

北信越ブロック・・・富山県

東海ブロック・・・三重県

近畿ブロック・・・和歌山県（全国大会同時開催）

中国ブロック・・・島根県

四国ブロック・・・徳島県

九州ブロック・・・熊本県

(3) 青年国際交流事業報告会

国際交流に関心のある青年を対象に、青年国際交流事業参加者による報告会を行い、国際交流事業への参加を促す。

年3回 東京で開催、参加人数 各250人程度

(4) 国際理解促進のための指導者養成セミナー

国際理解の促進を図るため、国際交流に携わる指導者の養成を行う。

年1回 東京で開催、参加人数 20人程度

3 青少年国際交流に関する出版物の刊行等

(1) 情報誌の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青

少年国際交流活動の紹介などを中心とした情報誌「マクロコズム」を発行し、都道府県を中心とする関係機関及び一般に配布する。

季刊 11,500部 1回 3,000部 3回

(2) 年報の刊行

全国の地域や職域及び海外において行われている青少年国際交流活動の実施状況など、青少年国際交流に関する情報や資料を収集、整理した年報を作成し、国際交流実施団体等に配布するとともに、政府刊行物センター等において販売する。

年1回発行 1,500部

(3) その他

青少年国際交流事業に関連する各種資料を作成し、都道府県を中心とする関係機関に配布する。

4 青少年国際交流に関する情報収集・提供及び調査研究

(1) 青少年の国際交流に関する情報収集

① 青少年国際交流情報ネットワークの整備

内外の青少年国際交流関係者に関する情報を収集し、ネットワークを整備する。

② 海外における国際交流活動に関する情報収集

関係各国に職員等を派遣し、国際交流に関する情報を収集する。

(2) ホームページによる国際交流活動に関する情報提供

① 情報誌「マクロコズム」のウェブサイトでの公開

② センターの概要及び事業案内、各種募集案内等の公開

(3) 青少年の国際交流に関する調査研究

5 青少年国際交流に関する支援・コンサルティング等

(1) 国際交流活動の推進

全国各地域で行われる青少年の国際交流活動を推進する。

(2) 青少年国際交流コンサルティング

青少年国際交流事業の実施を希望する団体を対象に、青少年国際交流事業の企画、実施に関する相談に応ずる。

(3) 国際ボランティア等に関する情報提供

依頼に応じて国際協力、国際貢献に関心のある青少年に対し、国際協力、国際貢献をする活動団体、活動内容等を紹介する。

- ウェブサイト <http://www.centettrye.org/>
当財団が主催する事業や内閣府青年国際交流事業の案内等を随時更新しています。
- 「MACROCOSM」(マクロコズム) <http://www.macrocism.jp/>
年4回編集・発行している「MACROCOSM」を1994年11月に発行された第1号から最新号までウェブサイトで見ることが出来ます。
- パンフレット/年報
当財団の活動を紹介したパンフレットも併せて御参照ください。「青年国際交流事業と事業参加者の事後活動」(通称年報)も引き続き編集・発行していきます。



会長あいさつ

「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」

日本青年国際交流機構会長 大河原 友子



東日本大震災で命を奪われた方々の御冥福をお祈りいたしませんととも、被災された方々と地域の復興を心よりお祈り申し上げます。

日本青年国際交流機構は、今回の東日本大震災に対して日本全国、そして世界60数か国にあるネットワークを最大にいかしながら現地の方々のニーズに合った支援をしています。震災直後、必要な支援物資を日本全国の会員が様々なコネクションを使い集めることができました。また、国内外から心温まるメッセージが届き、様々な場所でチャリティイベントが企画され、被災地復興の支援の輪が広がっています。

内閣府青年国際交流事業が始まって以来今年で53年目、日本が海外に蒔いてきた種が実り、世界中で日本のサポーターとなった既参加青年たちが日本のためにがんばってくれています。

青年国際交流事業は「様々な経験によって青少年を育成し、人と人、国と国を繋げる」と高い評価はされるものの、その実績や効果を形で示すのが難しいと言われてきました。しかし、今回、日本のために献身的な活動を惜しまない仲間が世界中にたくさんいるということが実証されました。彼らこそが、正に国際交流事業の成果であり日本の財産です。

私たちは国内外に伝わる風評被害を避けるためにも正しい「日本」や「被災地」の現状を世界に向けて発信していく必要があります。また、今回の災害により日本全体に自粛ムードがありますが、

被災地の復興支援はもちろん、日本全体を活気づけていくことがとても重要だと感じています。IYEOの活動方針である「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」は、今の日本にとって必要不可欠な要因だと思います。

活動方針を実現させる手段の一つとして、本年度より自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)や「ボランティアノススメ」(仮称)を導入します。自主活動サポート制度は、会員が様々な自主活動を企画する際にIYEOに奨励金申請ができる制度です。奨励金には限度がありますが、あなたのアイデアを形にする絶好のチャンスです。それを実現すること＝IYEOの活動方針に沿って日本を元気にする活動を促進できるわけです。たくさんの応募を期待しています。

また、今年度の都道府県IYEO役員研修では、リーダーシップ、危機管理、他団体との連携等をキーワードに若手のリーダー育成にも力を入れています。現在、日本は今まで経験したことのない大変な状況にあります。こんな時だからこそ、全国のメンバーの皆様と共に様々な活動にチャレンジしていきたいと思っています。

内閣府及び(財)青少年国際交流推進センターはもとより、関係団体とも連携しながら社会にアピールしていきましょう。皆様御支援、御協力をお願いします。

平成23年度活動計画

I. 活動方針

「社会に活力を与えられる人材育成を目指して」

変化の激しい現代社会においては、これらの変化に対応し幅広い視野を持って新しい取組を考え、実行できる人材が必要とされている。このような現状を踏まえて、50年を超える内閣府青年国際交流事業で培われた青年育成のノウハウと日本青年国際交流機構で築き上げたネットワークをいかした人材育成に取り組む。

1. 青年層活性化の基盤づくりに取り組もう

現代の青年の社会活動へのニーズを把握して、青年の活動の場作りと環境整備に取り組み、青年による社会の活性化を目指す。

2. 地域社会に貢献できる人材育成に取り組もう

地域における国際交流活動を積極的に行い、地域と世界の距離を狭めるとともに、地域のニーズに合った貢献が果たせる人材の育成に努める。

3. 国際ネットワークをいかした国際協力活動に取り組もう

国内外における様々な課題に対応するため、半世紀にわたって築いたネットワークを活用して国際協力活動を推進し、社会に貢献していく。

II. 主な活動分野

第1分野： 地域における国際交流活動を基本にした人材育成

- (1) 短期の海外派遣事業
- (2) 国際理解を深める勉強会やワークショップなどの研修プログラムの開催
- (3) 小中学校の国際理解教育への協力
- (4) 在住外国人への支援活動
- (5) 地域の人々と在住外国人との交流プログラム
- (6) 内閣府青年国際交流事業報告会の開催

第2分野： 国際交流事業受入れへの協力及び自主事業による外国青年受入れ/派遣

- (1) 青年国際交流事業へのプログラム内容の提言
- (2) 行政・団体等との連携による地元青年を含めての受入実行委員会の組立て
- (3) ホームステイのアレンジ
- (4) 地域産業並びに多様な分野との連携による外国青年の日本理解促進
- (5) 団体及び大学との連携によるディスカッションプログラムの組立て

第3分野： 国際協力活動

国内外で起きる災害や諸問題に対して、各国の事後活動組織と連携して問題解決に向けて取り組む

第4分野： 都道府県IYEO及び会員のネットワーク強化と啓発活動

- (1) 全国大会、ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)等の開催
- (2) 都道府県IYEO役員研修の開催
- (3) ブロック内IYEO間の連携強化の取組
- (4) 各事業の既参加者の縦のつながりを促進する取組による国内ネットワーク強化
- (5) プリテンボード発行等による会員間の情報共有

第5分野： 内閣府青年国際交流事業の外国参加青年とのネットワーク

- (1) 「東南アジア青年の船」事業のASEAN各国事後活動組織との国際連携組織(SSEAYPインターナショナル)
 - ① SSEAYPインターナショナル総会の開催
 - ② 共通連携活動の取組
 - ③ SSEAYPインターナショナル事務局担当国としての対応
- (2) 「世界青年の船」事業参加45か国の事後活動組織との国際連携組織(SWYAA)
 - ① SWYAA総会の開催

- ② 共通連携活動の取組
- ③ SWYAA事務局としての対応
- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
 - ① 中国との交流プログラムの推進
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携
 - ① 「日韓交流連絡会議」の開催
- (5) 「国際青年育成交流」事業の交流国であるヨルダンとドミニカ共和国とのネットワーク形成
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成

第6分野：青少年分野についての活動の啓発

- (1) 若者の人材育成並びに意識啓発を目的とした独自の自主事業への取組
- (2) 国及び地方自治体の青少年に関する法律及び条例の普及・啓発への協力
- (3) 青少年分野に関わる公的な場への人材推薦及び積極的発言
- (4) 他団体との連携

第7分野：広報活動への積極的取組

- (1) 団体をアピールするための広報
 - ① 内閣府青年国際交流事業との連携をわかりやすく示す
 - ② 独自の自主事業をまとめて対外的にアピールできるよう組み立てる
 - ③ インターネット広報の充実
- (2) 内閣府青年国際交流事業募集広報への協力
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 企業への働きかけ

第8分野：財政基盤の確立

将来を展望した運営と財政基盤確立の取組

III. 本部における活動計画

1. 全国大会の開催

第27回全国大会和歌山大会

日程：平成23年11月26日(土)～27日(日) 開催地：和歌山県

2. 全国推進会議の開催

第54回全国推進会議

日程：平成23年11月25日(金)～26日(土) 開催地：和歌山県

第55回全国推進会議

日程：平成24年3月上旬 開催地：東京都

3. ブロック大会(青少年国際交流を考える集い)

平成23年度中に8ブロックにおいてブロック大会を開催する。今年度の近畿ブロックについては、全国大会と同時開催とする。

ブロック毎に活動方針に沿ったスローガンを設定し、ブロック大会開催の際に掲げて、会員の活動についての共通認識の形成と意識高揚に資する。

4. 東日本大震災の被害からの復興活動への取組

平成23年3月11日(金)に発生した地震及び津波による被害への復興支援に継続的に取り組むこととする。

- (1) 東日本大震災復興支援のための募金活動
- (2) 支援物資の送付
- (3) 支援ボランティアの募集を行い、設定した支援先へのボランティア派遣
- (4) ホームページ等で世界や全国からのメッセージや活動内容を発信

5. IYEO設立20周年記念からスタートした事業の継続

設立20周年記念を機に取り組んだ事業のうち、成果をあげたものから継続して取り組んでいく事業を選定して積極的に取り組む。(グローバル・フォト・コンテストの作品展示の推進、IYEO Cafe、広報活動の推進等)

6. 都道府県IYEO役員研修の開催

都道府県IYEOで事務局を担当する役員メンバーから代表者を集めて、実務研修を行う。

都道府県IYEOの活動基盤の充実を図ることにより、全国組織としての組織基盤の確立を目指して人材育成の一環として行うものである。今年度は、活動方針に沿った活動を具体的に推進するに当たって必要な運営能力の向上を目指したプログラムを組み立てること、特に考えて組み立てる力を身につけることを目指した研修とする。

日程：平成23年6月11日(土)～12日(日)(1泊2日) 開催地：東京都

7. 海外とのネットワーク

- (1) SSEAYPインターナショナル第23回総会の開催
 - 日程：平成23年4月29日(金)～5月2日(月)
 - 開催国：シンガポール
- (2) 「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)国際大会の開催
 - 日程：平成23年9月28日(水)～10月2日(日)

開催国：メキシコ

- (3) 中華全国青年連合会を基本にした「日本・中国青年親善交流」事業の中国既参加青年との連携
- (4) 「日本・韓国青年親善交流」事業の韓国既参加青年との連携「日韓交流連絡会議」の開催
 - 日程：平成23年8月19日(金)～21日(日) 開催国：韓国
- (5) 「国際青年育成交流」事業のネットワーク形成に向けて
 - * 国内におけるAir-Net Dayの開催などを軸におきながら継続的派遣国を中心に発展
- (6) 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」のネットワーク形成に向けて

8. 国際並びに国内支援活動

- (1) インドシナ津波被災国であるスリランカへの支援(スリランカ教育支援プロジェクト)を始めとする「世界青年の船」事後活動組織(SWYAA)における国際支援活動
- (2) インドシナ津波被災国であるタイ、インドネシアへの支援、並びにタイの「For Hopeful Children Project」への支援活動を始めとする「東南アジア青年の船」事業事後活動連携組織(SSEAYPインターナショナル)における国際支援活動
- (3) オーストラリア(ブリスベン)の洪水、ニュージーランド(クライストチャーチ)の地震に対して、各国事後活動組織との連携による支援
- (4) 宮崎県における度重なる被害、災害に対する継続的支援

9. 青少年分野についての意識の啓発及び具体的な活動の推進

- (1) 青年のリーダーシップの向上や社会への参画意識を高めることができる内容及び異文化理解を促進する内容の自主事業の企画・運営
- (2) 子ども・若者育成支援推進法の普及・啓発への協力
- (3) 各種青少年国際交流事業へのリーダー推薦及び公的委員会等への人材推薦
- (4) 他分野、他団体との連携活動の推進(共催、後援、協力)
- (5) 社会活動(ボランティア活動)の促進・啓発

10. 事後活動「Bulletin Board」の発行

年5回(全体発送と全国大会案内、事後活動ニュースの発送時に同封)都道府県IYEOの連絡文書発行に協力する。

A4両面に都道府県毎(またはブロック毎)に印刷して全体送付の際に同封する。

11. 国内ネットワークの強化

- (1) 各事業直後の全体での事業報告会の開催(年3回)
 - 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)及び(財)青少年国際交流推進センターと共催
 - ① 第23回「世界青年の船」事業報告会
平成23年6月19日(日)
 - ② 平成23年度航空機による青年海外派遣事業報告会
平成24年2月5日(日)
 - ③ 第38回「東南アジア青年の船」事業報告会
平成24年2月26日(日)
- (2) 事業毎の国内ネットワークの自主的強化
 - ① Air-Net Dayの開催(5月21日(土))
 - ② 「日本・中国青年親善交流」事業関係者による中国同窓会の開催
 - ③ 各事業関係各国外大使館への訪問
 - ④ 「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」既参加者の活動報告会の開催(12月)

12. 団体としての広報活動強化並びに平成24年度内閣府青年国際交流事業募集広報への協力

IYEOの社会活動団体としての活動実績を明確にアピールし、非営利団体としての社会的役割を広く知らしめるための広報活動に力を入れるとともに、内閣府青年国際交流事業の充実をはかるために、参加者募集広報活動の協力を重点をおいて取り組む。

- (1) 団体広報
 - ① VOICE100の活用
 - ② 「はじめてのIYEO」の活用
 - ③ ツイッターの活用
 - ④ その他、効果的なツールの活用への取組
- (2) 事業広報
 - ① 年間を通しての広報活動の工夫
 - ② 事業報告会及び事業説明会の開催
 - ③ 大学での事業説明会への協力
 - ④ 募集パンフレットの配布先の開拓
 - ⑤ マスコミへの紹介
 - ⑥ 企業への事業説明
 - ⑦ その他、効果的な広報活動を検討し推進

13. 財政基盤の確立

会員に対するの呼びかけを含め、継続的な寄付金収入の確保に努める。

日本青年国際交流機構 自主活動サポート助成金制度 (チャレンジ・ファンド)のお知らせ

日本青年国際交流機構では、今年度「自主活動サポート助成金制度(チャレンジ・ファンド)」を創設しました。これは、私たち団体の人的活力をより社会に提供していくこと、また団体として活性化を図ることを目的としています。

助成金制度の対象者は、都道府県IYEO、及びIYEO会員で構成されるグループです。助成金額は、予算総額の7割を限度とし、上限を10万円とします。是非、この制度の活用を図り、社会貢献とIYEOの活性化につなげませんか？皆さんの積極的な御応募をお待ちしています。

日本青年国際交流機構自主活動サポート助成金制度 規定

制定 平成23年4月16日

内閣府(総務庁・総理府)青年国際交流事業並びに地方公共団体が実施した国際交流事業既参加者の経験や知識、情報、アイデアを活かして、社会に貢献できる活動の実行を促進することによって、日本青年国際交流機構(以下「IYEO」という。)の人的活力を社会に提供するとともに、団体としての活動の活性化を図るため、本助成金制度を創設する。

(対象者)

第1条 本助成金制度の対象となる者は、都道府県IYEO及びIYEO会員で構成されるグループを基本とする。

(選考及び申請)

第2条 本助成金制度の対象活動の選考にあたっては、別途に定める選考規程にしたがって、対象活動及びその助成金の額を幹事会で決定し全国推進会議にこれを報告する。

- 2 都道府県IYEO事業として当該会長名で申請の際は、併せて所属ブロック幹事の推薦も必要とする。
- 3 IYEO会員で構成されるグループとして当該代表者名で申請の際は、申請された活動に直接かかわっていないIYEO会員等2名の推薦人を必要とする。
- 4 助成金の額は、予算総額の7割を限度とし、その額の上限は10万円とする。
- 5 その他選考基準については別に定める。

(実施及び報告)

第3条 第2条第1項に基づき決定された対象活動の決定通知及びその助成金の交付を行うにあたっては、IYEO会長名によって行う。

- 2 助成金は、活動報告書が提出され、実施内容を確認した後に交付する。ただし、活動内容によっては、必要に応じて、概算払もできることとする。
- 3 助成金対象活動の報告については、全国大会、ブロック大会等及びIYEOホームページで行う。

自主活動サポート助成金制度 選考基準(一部抜粋)

詳細はIYEOウェブサイトでご確認ください。

(活動内容)

第1条 本助成金制度の対象となる活動は、IYEO活動方針に沿った活動とし、次の項目に一つ以上、当てはまるものとする。

- ① 地域の国際化及び活性化に資する活動
- ② 国際交流及び国際協力に資する活動
- ③ 青少年及び次世代の育成に資する活動
- ④ その他幹事会が認めた内容の活動

2 本助成金制度の対象となる活動は、広く一般を対象とする活動であることを条件とする。



(申請者の条件)

第2条 本助成金制度の申請は、以下のいずれかの主催で行うことを条件とする。

- ① 都道府県IYEOが主催するもの。
- ② 会員で構成するグループが主催するもの。かつ、決定に際して、IYEOが共催者となることを了承することを条件とする。

申請締切は、当該年度7月以降実施の活動は前年度3月末まで、11月以降実施の活動については8月末までとなります。詳細は、自主活動サポート助成金制度における実施手順を御覧ください。

規定、選考基準、実施手順、申請書・報告書フォーマットは、以下のウェブサイトをご確認ください。

<http://www.iyeo.or.jp/ja/profile/houkoku.htm>

提出先及び問い合わせ先 IYEO事務局助成金係: touroku@iyeo.or.jp

日本青年国際交流機構 (IYEO) の東日本大震災への取組

東日本大震災で亡くなられた方々と被災された皆様に対し、心よりお悔やみとお見舞いを申し上げます。

日本青年国際交流機構 (IYEO) は、本部役員と被災県の都道府県IYEO役員が連携して、会員の安全確認に努めると同時に、役員間で協議をして、昨年度の活動計画に長期的な視点で復興支援活動に取り組む姿勢を打ち出しました。はじめに、全国の都道府県IYEO役員の協力のもと、被災県への支援物資提供に取り組み、現在も継続して行っています。IYEOは、今後も活動計画に基づき、支援物資の提供のみならず、被災した地域へのボランティアの派遣や被災地の子供たちを支援する具体的なプログラムを企画し、実施していきます。更に、家が全壊された方や仕事を失くされた方、並びに原発事故により自宅を離れざるを得ないの方々に対してのお見舞い金提供も検討しています。

1. IYEO本部の取組

東日本大震災復興支援活動 <http://www.iy eo.or.jp/ja/shien/index.htm>

①IYEO東日本大震災募金活動 <http://www.iy eo.or.jp/ja/shien/bokin.htm>

5月31日(火)時点で総額9,735,720円(団体6,273,718円+US\$5,939、個人3,462,002円)

②活動報告 <http://www.iy eo.or.jp/ja/shien/houkoku.htm>

- ・ IYEO本部における復興支援活動報告
- ・ 各都道府県IYEOでの支援活動報告
- ・ 各都道府県IYEO以外の団体・グループメンバーによる支援活動報告
 - 被災地の方々を支援するための全国で行われている会員を中心としたチャリティーイベント等
- ・ 海外での政府・事後活動組織、併せて既参加青年を中心とした個人の活動報告

③海外からの応援レター・メッセージ

世界中の関係団体や私たちの仲間である事後活動組織からの応援レターやメッセージを更新

<http://www.iy eo.or.jp/ja/shien/ouen.htm>

④IYEO会員を中心とした仲間のメッセージ(メッセージ・ボード)

<http://www.iy eo.or.jp/ja/shien/stylish/stylish.cgi>

2. 被災県での取組

岩手県青年国際交流機構

震災直後から会員が集まり、話し合いながら様々な活動に取り組んでいます。

3月には、会員の安否確認、被災会員をはじめ関係者へ御提供いただいた物資の配達、避難所での炊き出し、避難者の集団移送同行介助を活動の第一歩として行いました。

4月11日(月)～17日(日)、「ふじ丸」復興支援プログラムの現地サポートスタッフとして15名以上の会員が協力。23(土)～24日(日)、大橋副会長が来県、現地視察。30日(土)には田野畑村(岩手県北沿岸部)を視察、地域やNPO等と連携する必要性を確認し、具体案を話し合いました。

5月1日(日)～3日(火)、IYEO会員である宮崎県都城市議の方を中心に結成された炊き出し隊が、マイクロバスとトラックで岩手へ来てくれました(往復の移動に車中、船中計4泊!)

5日(木)、山田町の水産加工場で清掃ボランティアをしました。2階の屋根まで波を受け、水浸しになった一切のものを運び出し、男性は天井解体作業も行い、修復工事に移行できる状態が整いました。15日(日)の総会には30名以上が出席し、支援活動方針や今後の活動計画(下記参照)を話し合い、長期的に皆で取り組んでいくことを確認しました。また、申請中であった日本財団ROADプロジェクト「東北地方太平洋沖地震 災害にかかる支援活動助成」の交付決定も報告しました。私たちの活動も次のステップへ踏み出します。今後も皆様から御理解、御協力、御指導いただきながら活動してまいります。

活動方針

「IYEOのバイタリティとネットワークをいかしながら長期的継続的に、忘れることなく、柔軟に、また、ボランティアとしての礼儀をわきまえ活動する。そして発信していく。」

活動計画:

1. 短期- 清掃、物資支援など現地からすくいあげた需要に随時対応
2. 中期- 心のゆとり支援「IYEO縁側カフェ」実施(日本財団助成金の活用)
3. 長期- 地域連携支援。主に、被災した観光地の活性化への協力

活動状況はblogにも掲載していますので参照ください。 http://blogs.yahoo.co.jp/iwate_iy eo



宮城青年国際交流機構

宮城県青年国際交流機構は、震災直後から伊勢みゆき副会長を中心として役員が結束し、IYEO本部や他県のIYEOの協力も得ながら、石巻市立病院をはじめとした様々な被災地へ赴き、復興支援活動や物資提供を行っています。4月22日(金)には、IYEO大河原会長と大橋副会長が来県し、被災地の現状報告をするとともに、今後の支援について宮城IYEO役員を含めた話し合いがなされ、以下の内容で支援していくことに合意しました。



1. 「石巻市立病院」再建までの継続的な支援

宮城IYEO会員である及川敦子さんが勤務される病院の医療スタッフや関係者に継続的に物資を提供しています。市立病院は、津波被害に遭い、病院が壊滅したため現在は市役所を借りて軽症患者を受け入れています。5月末に水道がやっと復旧しましたが、看護部長をはじめ多数が家も流されている被災者であり、全てを失い家族を養うスタッフは、市からの食料配給がストップした5月以降、精神的、経済的負担が大きく困難な状況です。スタッフをはじめとする皆様のニーズに応えられる支援を継続します。

また、病院スタッフを通して、休みなく働く市役所職員、他の津波被害に遭った市立2病院(牡鹿、雄勝)、患者、被災者にも必要とする物資が個々のニーズにあわせて手渡されています。

2. 浦戸諸島桂島支援

島民数200人の島に宮城IYEOとして継続して訪問し、復興支援のための物資を提供しています。島は震災後50日目に電気が復旧しました。同時にカキの養殖が再開されましたが、学校や仕事で島を離れる人が多く、島に残っているのは高齢者と漁業関係者、自宅の2階に住める住民のみです。5月中旬現在、避難所生活をする島民は約40名。避難所の校庭に仮設住宅の建設が予定より早く始まりしました。

3. 支援目標について

支援が届きにくい方々へのピンポイント支援を継続的にを行います。また、支援を通して、関係性を築きながら復興を共に目指します。具体的には以下の二つです。

①石巻市立病院への段階に応じた継続的支援(詳細については現在検討中)

②浦戸諸島桂島でのカキ自然体験ツアーの実施までの支援

※島民や複数のNPOと連携し、島に人が集い、直接島全体が活性化する仕組みを検討中

宮城IYEOでは7月23日(土)に総会を予定していますので、今後の詳しい支援目標は総会後に確定する予定です。



船と翼の会ふくしま

震災直後より、「船と翼の会ふくしま」は、NPO法人ザ・ピープル(いわき市)を通じての支援物資提供活動を中心に、多くの方々の協力を得て復興支援を行っています。福島県立明成高校避難所(福島市)、浪江町の被災者の皆様(東和町の避難所)、相馬市原釜地区の被災した子供たちにも支援物資を提供しました。

1. NPO法人ザ・ピープル(いわき市)を通じての支援

かつて全国大会、ブロック大会を当会が開催する際に講師として御協力いただいていた「住民主体のまちづくり」を進めることを大きな活動の目的としている団体のニーズに応じて、日用品、衣服、食料、薬、衛生用品等、様々な物資を多数送りました。

2. あづま運動総合公園内避難所(福島市)での炊き出し

約700人の避難されている方々に、毎週1回の炊き出しを行っています。この避難所で配られる食事は、朝はパン、昼はパンとおにぎりだけで、5月になり、夜はお弁当が配られるようになりました(4月まではおにぎりのみ)が、非常に栄養のバランスが悪く、体調を崩す子供もいるそうです。生野菜サラダ、イチゴ、漬物、ポテトサラダ、野菜スープ、ひじきと味噌汁、すき焼き等を避難所にいる皆様の希望に沿って提供しています。福島県国際交流協会をはじめとする関係者も協力してくれています。今後は避難所にいる方が主体となって炊き出しができるように応援していきたいと思えます。

3. 学用品の提供

福島市の大きな避難所近くの小学校に転校した子供たちや相馬市の津波の被害に遭った子供たちにIYEO-netで呼びかけて集めた学用品(習字セット、絵の具セット、定規等)を提供しました。更に、ASSEAY Thailand(「東南アジア青年の船」事業タイ事後活動組織)からいただいた義援金で、黄色い帽子を毎年集めてくれている福島市立清明小学校に学区外通学する被災した児童11名に対して、授業で使うノートを教科ごとに購入してプレゼントしました。

4. 復興の黄色い雑巾プロジェクト

山口県の理容協会「RIYOひまわりの会」から数多くのタオルを提供していただくことになりました。タオルを使って雑巾を作り「復興支援雑巾」として販売し、支援金に充てるプロジェクトを企画中です。雑巾作りには、避難所の方も含めて広くボランティアを募る予定です。



3. 海外からの復興支援活動報告

■ SSEAYP インターナショナル(「東南アジア青年の船」事業各国事後活動組織のネットワーク)

「東南アジア青年の船」事業各国事後活動組織のネットワークである SSEAYP インターナショナルでは、東日本大震災の直後から、タイの事後活動組織 (ASSEAY Thailand) の発案による「ASEAN-Japan Birds of Friendship Project (ASEAN・日本 友情の鳥プロジェクト)」を立ち上げ、各国で SSEAYP インターナショナルの共通活動として東日本大震災の復興支援活動に取り組んでいます。日本と ASEAN 10 か国の友情の象徴として、11羽の折り鶴をあしらったプロジェクトロゴを作成し、各国での復興支援イベントを実施する際にロゴTシャツなどを販売し、その収益金が IYEO や各国日本大使館へ義援金として送られています。

また、第25回「東南アジア青年の船」事業タイ参加青年 Mr. Art Thomya が、ASSEAY Thailand の活動として、自身が作詞・作曲した「私の友だち」の東日本大震災復興支援バージョン・ビデオクリップ (日本語・タイ語・英語) を作成して、チャリティ・コンサートを行っています。ASSEAY Thailand では、2007年から「船と翼の会ふくしま」と「夢企画～福島・タイ交流プログラム～」を継続して実施しているため、「ASEAN・日本 友情の鳥プロジェクト」を通して集めた義援金約 US\$9,000 のうちの一部が「船と翼の会ふくしま」へ送られ、福島県で被災した子供たちの学用品購入等に使われることになりました。これまで福島県から贈られた黄色い帽子を受け取ったタイの子供たちから、福島県の子供たちへ、「私たちは一人ではない、タイの子供たちも福島・日本のみんなを応援している」とのメッセージも届けられました。

ラオスの事後活動組織 (Lao SSEAYP Alumni Association) では、首都ヴィエンチャンにおいて、4月2日にチャリティ・ボウリング大会、4月6日・9日にチャリティ・コンサート (ラオス政府青年同盟及びラオス・アートメディアと協力) を開催しました。各イベントでは、政府機関や民間団体等の支援を受けて全国的に広報し、在ラオス邦人を含め多くの一般参加者を得て、「ASEAN・日本 友情の鳥プロジェクト」Tシャツ販売や参加者と折り鶴を作りながら、日本へ向けたメッセージ (写真) を集めました。イベントを通して集めた約 US\$2,000 が、IYEO と在ラオス日本大使館へ義援金として送られました。



ラオス事後活動組織より送られたメッセージ (タテ109cm×ヨコ210cm)

■ 「世界青年の船」事後活動組織 コスタリカ (SWYAA Costa Rica)

SWYAA Costa Rica は、3月20日にコスタリカの国民文化センターで行われた「Arigato Day -Ticos for Japan (アリガトウ・デー: コスタリカ人は日本のために)」に参加しました。イベントは、企画からわずか3日間で開催に至り、日本と関係のある様々な NGO から1万人以上の人々が東日本大震災で被災した人々を思い、日本の支援のために集まりました。イベントでは、コンサート、食べ物の販売、折り紙、日本のお土産品の販売等が行われ、SWYAA Costa Rica の政府の要職についている既参加青年が、このイベントの開催に尽力しました。また、多くの会員がボランティアで設置されたブースにおいて様々な活動を行い、日本のための募金を集めました。

- ・ 来場者に有料で浴衣を着せて写真撮影
- ・ チョコレートでコーティングしたフルーツスティック、パイナップルジュース、お土産の販売
- ・ カード占い

最終的に SWYAA Costa Rica は US\$2,000 を集めました。イベント全体では US\$100,000 が集まり、関係団体へ寄付されました。



■ 「世界青年の船」事後活動組織 オマーン (SWYAA Oman)

東日本大震災の被災者への支援金調達のための「ソリダリティー・ウォーク」を日本人と一緒にを行う企画を SWYAA Oman が青年スポーツ省に提案し、それに賛同した青年スポーツ省は、日本と関係のある法人や個人と連絡を取り、全面的な支援をしてくれました。私たちは手紙で寄付金提供者や協賛者を探しました。多くの方々や企業からイベント出席への積極的な回答をいただきました。また、オマーンの日本人コミュニティの皆様をイベントに招待し、日本国大使館の方々を主賓にお招きしました。オリジナルTシャツを作製し、参加者に販売するとともに、物品を多数集めてバザーを開催し、その収益を震災被災者へ送る予定です。



私たちのスローガンは「Solidarity Together (共に団結しよう)」で、イベントには、日本国大使や、オマーン外務省の事務次官、青年スポーツ省の事務次官、報道関係者、著名人、スポーツ選手を含む500人以上が参加し、イベントを通じて US\$15,000 が集まりました。「世界青年の船」事業の広報活動や、オマーン在住の日本既参加青年の協力を得てTシャツに日本語で名前を書き入れる活動も行いました。この寄付金は、オマーンの日本国大使館を通じて日本に届けられます。

その他の事後活動組織からも活動報告が IYEO 本部に届いていますので、随時 IYEO ウェブサイトで紹介しています。また、以下の海外の関係団体から IYEO 東日本大震災復興支援に対し義援金を受け取りました。

Association of the Ship for Southeast Asian Youth of Thailand (ASSEAY Thailand) / For Hopeful Children Project (FHCP) 2011 / タイ・バンガー県の人々 / タイ王国海軍婦人会 / PTT Chemical Public Company Limited (PTTケミカル) / Assumption College Rayong Kindergarten (アサンブション・カレッジ・ラヨン幼稚園) PTA / SSEAYP2008タイ参加青年一同 / SSEAYP International / SSEAYP International Singapore / Lao SSEAYP Alumni Association (LSAA) / Vietnam Alumni Club of Youth Friendship Exchange Programs (VACYF) / SSEAYP International Indonesia / SSEAYP International Cambodia / SSEAYP International Philippines / SSEAYP1987参加青年一同 / Canadian Ship for World Youth Alumni Association / SWY-Greece Alumni Association / Ship for World Youth Alumni Association Tonga / GLORY (U.S.A.) Inc., etc.

第9回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」

平成14年度に開始された「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」では、高齢者、障害者及び青少年の各関連分野における社会活動に携わる日本青年を海外に派遣し、訪問国の同分野で重要な役割を担っている民間組織等のリーダーを日本に招へいするという相互の交流を通じ、社会活動の中心的担い手となる青年リーダーの能力の向上と相互のネットワークの形成を図っています。

派遣事業	平成22年 10月10日～19日	派遣先：ドイツ(高齢者分野8名)、ニュージーランド(障害者分野8名)、英国(青少年分野9名) ・招へい青年を受け入れる県からの派遣者は、招へいプログラムの各種実行委員として受入れに協力
招へい事業	平成23年 2月8日	招へい青年来日 ドイツ(13名)、ニュージーランド(12名)、英国(12名)からそれぞれ三分野の青年リーダーを招へい
	2月9日	開会式・オリエンテーション・基調講演・歓迎会 日本のNPO事情及び各分野の現状について、行政官による講義を実施
	2月10日	NPOマネジメントフォーラム ＜課題別視察＞ NPOマネジメントフォーラムのディスカッションテーマ(トピック1～3)に即した施設を訪問し、実際の現場の視察及び関係者との意見交換を実施 【トピック1：社会のニーズにあった新規事業～団体の目的を達成するために、社会のニーズにあった効果的な新規事業を立案、実施するプロジェクト運営について～】 AM：社会福祉法人「江東園ケアセンターつばき」／PM：特定非営利活動法人「ETIC」 【トピック2：団体の理解者を増やす広報～団体の活動の充実をねらって団体への理解度、認知度を高めるために取り組む広報プロジェクト運営について～】 AM：財団法人「日本YMCA同盟」／PM：社会福祉法人「東京コロニー」 【トピック3：財政基盤の改善について～団体の目的達成のために、継続的な活動を行うための資金調達を行い、財政基盤の改善を図るプロジェクト運営について～】 AM：特定非営利活動法人「日本ファンドレイジング協会」／PM：財団法人「修養団本部」
	2月10日～13日	NPOマネジメントフォーラム 「NPOにおけるプロジェクト・マネジメント～組織や活動を継続し発展させるために～」を総合テーマに、上記トピック(1～3)に基づき、日本のNPO団体関係者と共に討議を実施
	2月14日	日本文化体験・自主研修
	2月15日～20日	地方プログラム 【高齢者分野】 島根県：生きがいのある高齢者の生活 【障害者分野】 宮城県：障害者の社会参加のための支援 【青少年分野】 熊本県：ユースワーカーの育成の在り方
	2月21日	コース発表会・評価会・歓送会
	2月22日	招へい青年帰国

地方プログラム

今年度の地方プログラムでは、各分野(コース)に分かれ、島根県(高齢者分野)、宮城県(障害者分野)、熊本県(青少年分野)を訪問し、コーステーマに沿ったプログラムを実施しました。訪問県では、関連施設を訪問し、NPO及び各分野の関係者と共に地方セミナーを行いました。

島根県 (高齢者分野)

第9回「青年社会活動コアリーダー育成プログラム」ドイツ派遣団 島根県受入実行委員 原 陽子

島根プログラムでは、「高齢者の生きがいのある暮らし」を支えるために、地域における人材をどのように活用し今後につなげていくかの方策を見出すというテーマを掲げ、高齢化が進む島根県独自の「高齢者本位の地域包括的ケアマネジメントの再構築」に向けた人材の体制作りについて考えました。

地方セミナーでは、これからの高齢者福祉に求められる支える側の役割や、地域に点在する高齢者を取り巻く福祉人材の在り方及び可能性を探り、連携やネットワーク形成がもたらす効果について認識を深めました。私の担当した分科会では、次世代への啓発の視点で意見を交換しました。松江市立持田



地方セミナーの全体会で事例発表を行う筆者

小学校では、劇を媒体として認知症の啓発を行った事例を紹介し、招へい青年からは「自国ではこのような取組はないので、ぜひ、持ち帰りたい」との意見が挙がりました。

人と人とのつなが

日程	プログラム
2月15日	島根県庁表敬訪問 島根県健康福祉部高齢者福祉課の講義 歓迎会
2月16日	有限会社ライフスタイル東光訪問 東比田交流センターで意見交換
2月17日	持田公民館訪問 持田地区社会福祉協議会の活動視察と 意見交換 松江市立持田小学校訪問 夕食交流会
2月18日	地方セミナー ホームステイ
2月19日	歓送会
2月20日	コース評価会

りが大切で、セミナー自体がつながりの場となっていることを参加者皆で確認できたことは成果でした。セミナーをはじめとしてこのプログラムでの出会いを今後にかかしていきたいと思っています。

宮城県
(障害者分野)Delegation Leader of New Zealand
Tyron Pini

I would like to briefly begin by saying that the thoughts and wishes of the delegates who visited the Miyagi region continue to be with all those people who open their homes and services to use when we visited. The warm hospitality we received was something none of the delegation will forget. The events of the earthquake and tsunami are ones which we know have changed the lives of so many people.

Through our visits and our conversations with individuals connected to the NPO sector we clearly saw that people are passionate and committed to providing the best opportunities for those they supported. The attitude of staff to ensure people with disabilities could actively engage in the communities they lived and have good quality services was the driving thought.

From conversations directly with people with personal experiences of disabilities we saw that individuals wanted to be in more control of their own services and make more difference. Our key suggestion is to be more inclusive in design of service by and for people with disabilities - nothing about us, without us. It was evident that for many services this was their aim also and what they were looking to achieve.



地方セミナーの締めくくりとして、今後の活動目標を掲げて
(筆者後列左から7人目)

日程	プログラム
2月15日	宮城県庁表敬訪問、宮城県の施設概要説明 歓迎会
2月16日	仙台市若林障害者福祉センター訪問 運営団体の概要説明、意見交換
2月17日	登米市立米山東小学校訪問 社会福祉法人契特会訪問 共生型グループホームさくらおか視察 知的障害者利用施設はんとく苑視察、意見交換
2月18日	社会福祉法人チャレンジらいふ すていじ仙台訪問 自立生活支援センターCILたすけっと事務所・スタッフ自宅視察 特定非営利活動法人はっぶの森「長町遊楽庵びすた〜り」 夕食交流会
2月19日	地方セミナー ホームステイ
2月20日	歓送迎会 コース評価会

ニュージーランド団団長 タイロン・ピニ

招へい者が宮城県を訪問した際に、事業所やスタッフ自宅への訪問を受け入れてくださった皆様に、私たちの思いはいつも皆さんのそばにありますとお伝えしたいと思います。私たちへの温かいおもてなしは、忘れることのできないものです。地震や津波により、非常に多くの方々の生活が一変したとお聞きしております。

施設訪問や非営利セクターにかかわる様々な方々とのお話を通し、支援対象者に向けて最善の機会を提供しようと熱心に取り組んでおられることがはっきりと分かりました。障害当事者が地域活動に積極的ににかかわり、質の高いサービスを受けることができるように、スタッフのみなさんが働きかけておられました。

障害を持つ人々と直接お話しした中で、受けるサービスの内容を個人で決めたいと思っていることが分かりました。障害当事者が自分たちのためにサービス内容を考えるように（「私たち抜きに私たちのことを決めないで」）、インクルージョン（社会的一体性）を進めていくことを提言します。これは、私たちが訪問した施設などの目的であり、実現しようと模索されていることです。

熊本県
(青少年分野)第37回「東南アジア青年の船」事業参加青年
熊本県受入実行委員 太田 晴

平成22年10月から「東南アジア青年の船」事業に参加した私にとって、今回の受入れはIYEOの一人として初めてのことで、事後活動を早くから経験させていただける良い機会でした。もちろん受入実行委員会は、船に乗る前から発足しており、私もその段階から参加させてもらいました。

実行委員の話合いの中で特に苦労したことは、訪問先の選定です。青少年分野の受入れは初めてで、しかも目的や範囲が広く、テーマを絞ることや一つの問題に固まらず様々な視察先を選ぶことはとても難しいことでした。何度も話合いを重ね、実行委員の知っていることを絞り出し、それらを上手くつなげて参加者に満足のいく日程を組むよう努力しました。この話合いで私は、実行委員それぞれが当事者意識を持つことや、話合いの中で共通のテーマを意識していくことが大切だと学びました。

6か月もの準備の後、いよいよ2月に実際に受入れを行いました。私は初めてのことで戸惑うことが多かったです。外国参加者は専門の方たちで、訪問先一つ一つで真剣に話を聞き、また質問の多さに驚きました。訪問先の方々



村田信一副知事表敬(筆者後列左から2人目)

への質問の他に、その施設の改善点やアドバイスをしている姿に、これらの訪問先を選んで良かったと安心

日程	プログラム
2月15日	熊本県庁表敬訪問 熊本県の施策概要説明 歓迎会
2月16日	地域理解：熊本城見学 NPO法人自然を愛する会JOC訪問
2月17日	適応指導水俣教室「あじさい教室」訪問 地域理解：水俣病資料館見学
2月18日	NPO法人奏気流訪問、意見交換会 NPO法人熊本ダルク訪問
2月19日	地方セミナー ホストファミリー対面式及び歓送迎会 ホームステイ
2月20日	コース評価会

しました。

反省点は、実行委員同士で十分に情報が共有されていなかったことと、私自身リーダーシップの取り方がよく分からず、段取りに戸惑ってしまったことです。(財)青少年国際交流推進センターの方にアドバイスをいただきながら、少しずつ改善できたと思うのですが、次回受入れでは、もっとスムーズに進められるように、今回気付いた点などをいかしながらがんばっていききたいです。

SSEAYPインターナショナル第23回総会(SIGA) in シンガポール

The 23rd SSEAYP International General Assembly in Singapore

「東南アジア青年の船」事業ASEAN各国事後活動組織と、日本青年国際交流機構(IYEO)で組織しているSSEAYPインターナショナル(SI)の第23回総会(SIGA)が、「SSEAYP Wave towards a Sustainable Environment (持続可能な環境に向けたSSEAYPウェーブ)」をテーマに、平成23年4月29日～5月2日、シンガポールで開催されました。

1988年にマレーシア・クアラルンプールにて第1回SIGAが開催されて以来、ほぼ毎年、SI加盟各国事後活動組織の持ち回りでSIGAが開催されています。参加者はASEAN各国と日本から200名を超え、日本からも、「東南アジア青年の船」事業の既参加者だけでなく、「青年の船」事業・「世界青年の船」事業・「国際青年育成交流」事業などの既参加者やその家族・友人も含め、36名の多様な参加者が集まりました。

今回のSIGAの特色は、テーマとして掲げた「持続可能な環境に向けたSSEAYPウェーブ」のもと、一貫して持続可能な環境について考えるプログラムであったことです。5月1日の社会貢献活動では、参加者がシンガポールの集合住宅を訪問し、各家庭から古新聞・古着などのリサイクル用資源を回収しました。実際に体験することを通して、持続可能な環境について自国でできることを考えるきっかけとなりました。

この社会貢献活動は、SIが取り組む共通活動として実施され、SIGA

の開催に合わせて継続的に活動していくことになっています。

また、東日本大震災を受け、大河原友子IYEO会長を中心に、IYEOの支援活動の取組について参加者と共有する機会を作りました。SIGAの参加者や「東南アジア青年の船」事業各国事後活動組織から、日本の皆さんへたくさんのメッセージ・折鶴・義援金などをいただきました。SIGA期間中に実施されたSIラッフル(くじ引き)やオークションの収益は、すべてIYEOの東日本大震災募金へ寄付されました。

日程	主なプログラム
4月29日	参加者到着 SSEAYPインターナショナル会長会議 歓迎夕食会(基調講演「持続可能な環境をつくる」)
4月30日	環境をテーマにしたグループ別視察 総会(各国事後活動組織から活動報告) ディスカッション・ワークショップ (「建造環境・動植物」、「リサイクル・水資源」、「人材資源ネットワーク」、「トラベルネットワーク」、「社会貢献活動」)
5月1日	社会貢献活動(リサイクル用資源回収) 歓送夕食会、閉会式
5月2日	参加者帰国



SIGAシンガポール実行委員長Mr. John Vijayan Vasavan, PBMあいさつ



「持続可能な環境をつくる」について基調講演をするDr. Seetharam Kallidaikurichi E



街中の貯水池として作られたマリナー・バラージュで、治水の歴史、持続可能な水資源供給についての展示を見る



東日本大震災の被災者に向けて折鶴を折る参加者



全国青年理事会理事長Mr. Koh Peng Kengと記念品交換をする大河原友子IYEO会長



各国から集まった参加者



社会貢献活動で、市民のリサイクルへの意識を高めるための活動の一環として、シンガポールの集合住宅を訪問し、リサイクル用資源回収の活動をする上杉聖次 IYEO副会長



各家庭から回収したリサイクル用資源を整理する



持続可能な環境について考えるためのモノポリーゲームを体験する松林博己内閣府参事官



シンガポールの歴史的建造物の残るフォートカニング公園にて

第14回「国際青年育成交流」事業(ドミニカ共和国)参加青年 岩切 由利香

私は「東南アジア青年の船」事業の参加青年ではありませんが、この度、御縁があり、SIGAに初めて参加いたしました。日本がこのような状況ですので、参加に少し躊躇もいたしました。参加した意義は十分にあつたと思います。出席者はフレンドリーな方ばかりで、共通して言えることは、皆、日本が大好きだということ。多くの方が日本への高い関心を持ち、今回の震災に対して、寄付などの支援活動を積極的、継続的にしております。感謝の気持ちを直接述べ、日本の状況を直接伝える機会を得られたことは、私自身にとって、大きな意味を持ちました。

今回仲良くなったインドネシアの既参加青年は、最近日本語を習い始めたそうです。「次回は、日本語で会話しましょう」と、約束しました。そう！来年のSIGA開催地は日本（東京）。多くの方が日本開催を心待ちにしているようです。日本ではどのようなおもてなしができるのでしょうか！？今回出会った仲間との再会を心待ちにしながら、微力ではありますが、私もお手伝いできればと思っております。



インドネシアからの参加者たちと(筆者左)

【次回SIGAのお知らせ】

次回の第24回SIGAは、来年、日本で開催されます。前回、平成14年に日本でSIGAが開催されて以来、10年ぶりの開催となります。今回のSIGAシンガポールでは、日本の参加者一同でSIGA Japanに向けてのアピールをしてきました。IYEOで今後実行委員会を立ち上げ、SIGA Japanの開催に向けて動き始める予定です。「東南アジア青年の船」事業の既参加者に限らず、これまでに各国のSIGAに参加して下さった皆さん、他事業の既参加者の皆さん、その他多くの皆さんと一緒にSIGA Japanを作り上げていきましょう。

SSEAYPインターナショナル第24回総会 (SSEAYPインターナショナル設立25周年記念)

平成24年4月25日(水)～28日(土)
日本・東京

テーマ：「SSEAYP International
Together, Move Forward
(SSEAYPインターナショナル、共に進もう)」



来年開催のSIGA JapanをPRする大河原友子IYEO会長と日本からの参加者

青少年国際交流事業事後活動推進大会 日本青年国際交流機構第27回全国大会 第18回青少年国際交流全国フォーラム 和歌山大会

日 時：平成23年11月26日(土)～27日(日)
場 所：和歌山マリーナシティロイヤルパインズホテル
和歌山県和歌山市毛見1517
TEL：073-448-1111
URL: <http://www.marinacity.com/hotel/>
テーマ：つなぐ、育む、輝く命～紀の国から^{とよ}宙へ～



平成23年度「青少年国際交流を考える集い」(ブロック大会) 開催予定

ブロック	開催地	開催予定日	ブロック構成都道府県
北海道・東北	山形県(米沢市)	平成24年2月予定	北海道・青森・岩手・宮城・秋田・山形・福島
関東	群馬県(調整中)	1月14～15日	茨城・栃木・群馬・埼玉・千葉・東京・神奈川・山梨
北信越	富山県(富山市)	10月1～2日	新潟・長野・富山・石川・福井
東海	三重県(伊勢市)	6月25～26日	静岡・愛知・岐阜・三重
近畿	和歌山県(和歌山市)	11月26～27日	滋賀・京都・大阪・兵庫・奈良・和歌山
中国	島根県(松江市)	9月3～4日	鳥取・島根・岡山・広島・山口
四国	徳島県(徳島市)	8月6～7日	徳島・香川・愛媛・高知
九州	熊本県(熊本市)	8月6～7日	福岡・佐賀・長崎・熊本・大分・宮崎・鹿児島・沖縄

今月の表紙

タイトル：ゾウの群れ
作 成 者：M.A. Thambara Sahssaka
(9歳)

IYEOがスリランカ教育支援プログラム
(One More Child Goes To School)で
支援しているスリランカ南部マータラ県
の小学校の子供が描きました。



編集後記

節電のために早く起きて洗濯を済ませてしまう等、ささやかな努力をしていますが、最大の課題は、なるべく電気を使わずに、今年の夏をいかに涼しく乗り切るかです。最近、話題になっているゴーヤを植えて、緑のカーテンを作りたいと思っています。(ふ)

MACROCOSM 5月号 vol.94

2011年5月31日発行

編 集 マクロコズム編集委員会

発 行 (財) 青少年国際交流推進センター

〒103-0013 東京都中央区日本橋人形町

2-35-14 東京海苔会館6階

TEL: 03-3249-0767 FAX: 03-3639-2436

e-mail: macrocosm@iyeo.or.jp

URL: <http://www.centerye.org/> (CENTERYE)

<http://www.iyeo.or.jp/> (IYEO)

編集協力 内閣府政策統括官(共生社会政策担当)

日本青年国際交流機構 (IYEO)

定 価 200円 **本体191円**

印刷所 株式会社デックス

TEL: 03-3400-8089 FAX: 03-5469-5270

IYEO会員のみなさまへ

特典いろいろ 「トップツアー WEBサイト」に ぜひご登録を！

法人コード

9A6X4NF

会員登録は
無料です！

こんなにカンタン！今すぐご登録を！



- ① <http://toptour.jp/> にアクセス
- ② 「会員登録」をクリックし、お客さま情報をご入力ください
- ③ 最後に上記の『法人コード』を入力して、完了です！

いま法人会員で
会員登録すると

ご旅行
代金の

5%

相当の
ポイント
を
特別還元

貯まったポイントは、
1ポイント=1円として
利用できます。

●法人会員として会員登録していただき、2011年9月30日までに出発する旅行をお申し込みいただいた方が対象です。(一部対象外の旅行商品もあります)

●旅行中のご旅行を何度お申し込みいただいても、5%ポイント還元の対象となります。

● トップツアーWebサイトの会員特典 ●

- 旅行に行くほどお得！うれしいポイントが貯まります！
(ポイントは次回以降の旅行精算時に利用可能)
 - 法人会員で登録いただくと、ゴールド会員からのスタート。ゴールド会員はポイント還元率が、スタンダード会員の1.5倍！
例)旅行代金100,000円の場合、スタンダード会員の方は1,500ポイントですが、ゴールド会員だと1,500ポイント。
- 全国の観光地で使える、お得な割引クーポンが利用できます。
 - 北海道から沖縄まで、人気施設で使える「割引クーポン」が、トップツアーWebサイトからダウンロードできます。ご旅行の際に活用ください。
- お客さま専用「マイページ」をご用意！
 - ポイント数や予約状況の確認は勿論、今までの申し込み履歴も分ります。
- お得な情報満載！オリジナルメールマガジンの配信
- 会員向けのお得な商品の案内も！
 - トップツアーがお勧めするお得な商品情報を会員様へ発信。旬にあわせたそのシーズンならではの商品をご案内します。

登録要項のご案内

旅行会社各社の
パッケージツアーも
お申込みできます。

トップツアーでは、お客様のご要望にあったツアーを
弊社企画商品だけでなく、他社商品を含めお選びいただけます。

旅行会社によってツアーに特約がある場合がございます。
トップツアーでは他社のパッケージツアーのお申込みもできます。
パッケージツアーのお申込みの際はトップツアーのサイトから申し込みください。

ご不明な点は下記までお気軽にお問合せください

トップツアー株式会社

ストリームライン新宿支店

〒160-0023 東京都新宿区西新宿7-5-25 西新宿木村屋ビルディング16階

TEL.03-5348-3500/FAX.03-5348-3799

担当：今泉 雄太・鈴木 真実



神戸／横浜のんびりカジュアルクルーズ 2日間

2011年 7月12日(火)～7月13日(水) 神戸発～横浜着

旅行代金 (大人お一人様・消費税込み)

36,000円～180,000円

神戸の街に明かりが灯る夕刻、港を出発し一路、横浜へ。華麗なダンス、カジノゲーム、バーでの静かな語りなど、大人のくつろぎの夜が待っています。昼間は真っ青な空と海に囲まれ、スパやプール、カフェなど多彩な空間とサービスを満喫。にっぽん丸自慢の美味も心ゆくまでお楽しみください。



神戸発着 岩国花火と夏の韓国クルーズ 5日間

2011年 7月20日(水)～7月24日(日) 神戸発～神戸着

旅行代金 (大人お一人様)

159,000円～784,000円

活気に満ちた韓国・釜山では、世界遺産の古都・慶州へのオプションツアーを企画しています。そして岩国では、錦帯橋など市内の名所を訪れるツアーをご用意。夜は、「岩国港みなと祭り花火大会」でパレードに富んだ花火を。混雑知らずの洋上の特等席・にっぽん丸よりのんびりとご観覧ください。



名古屋発着 夏休み八丈島クルーズ 3日間

2011年 7月25日(月)～7月27日(水) 名古屋発～名古屋着

旅行代金 (大人お一人様・消費税込み)

85,000円～400,000円

夏休みにご家族でお楽しみいただけるクルーズです。にっぽん丸は名古屋を出発し、東京の離島・八丈島へ。抜群の透明度を誇る海でのシュノーケリングを楽しめるオプションツアーを予定しています。新鮮な魚を「ツケ」にして、甘めの酢飯に乗せる島寿司など、郷土料理も楽しみです。



夏休み 名古屋／横浜カジュアルクルーズ 2日間

2011年 7月27日(水)～7月28日(木) 名古屋発～横浜着

旅行代金 (大人お一人様・消費税込み)

33,000円～176,000円

「クルーズに興味があるが、まずは体験したい」という方は気軽にご参加ください。1泊2日という日程ではありますが、旬の食材をふんだにとり入れた食事、ダンスタイムやカジノ、そしてきめ細やかなサービスなど、にっぽん丸クルーズの魅力の一端に触れていただけるはずです。



東北夏祭りクルーズ 6日間

2011年 8月2日(火)～8月7日(日) 横浜発～横浜着

旅行代金 (大人お一人様・消費税込み)

210,000円～1,050,000円

みちのくの夏祭りを訪ねる人気のクルーズ。まず、秋田では「竿燈まつり」へご案内。続く青森では、華麗なねぶたと勇壮なハネトの競演「青森ねぶた祭」、または高さ20メートル以上のねぶたが見られる「五所川原立佞武多」いずれかへご案内します。船内も夏祭り一色。名物「にっぽん丸の夏祭り」も楽しめます。



济州島と海峡花火・阿波踊りクルーズ 8日間

2011年 8月9日(火)～8月16日(火) 横浜発～横浜着 Aコース

その他区間コースもございます。

旅行代金 (大人お一人様)

298,000円～1,400,000円

横浜、神戸、下関からご乗船いただける、夏ならではの魅力いっぱいのクルーズです。韓国最南端、数多くの伝説と美しい自然に囲まれた济州島は、韓国で初めて世界自然遺産に登録されました。毎年恒例「にっぽん丸連」に参加するオプションツアーもあります。*踊る阿呆。になりたい方は、ふるってご参加ください。



掲載のツアーは、この広告でのお申し込みを受け付けておりません。資料(パンフレット)を当社下記店舗までご請求ください。 ※このほかにも各種クルーズがございます。お気軽にお問合せください。 ※掲載の写真はイメージです。